

大企業等のスタートアップ連携・調達加速化事業／ 市場創出及び本格調達・購買の実現可能性の検証*

*事業名称は更新予定

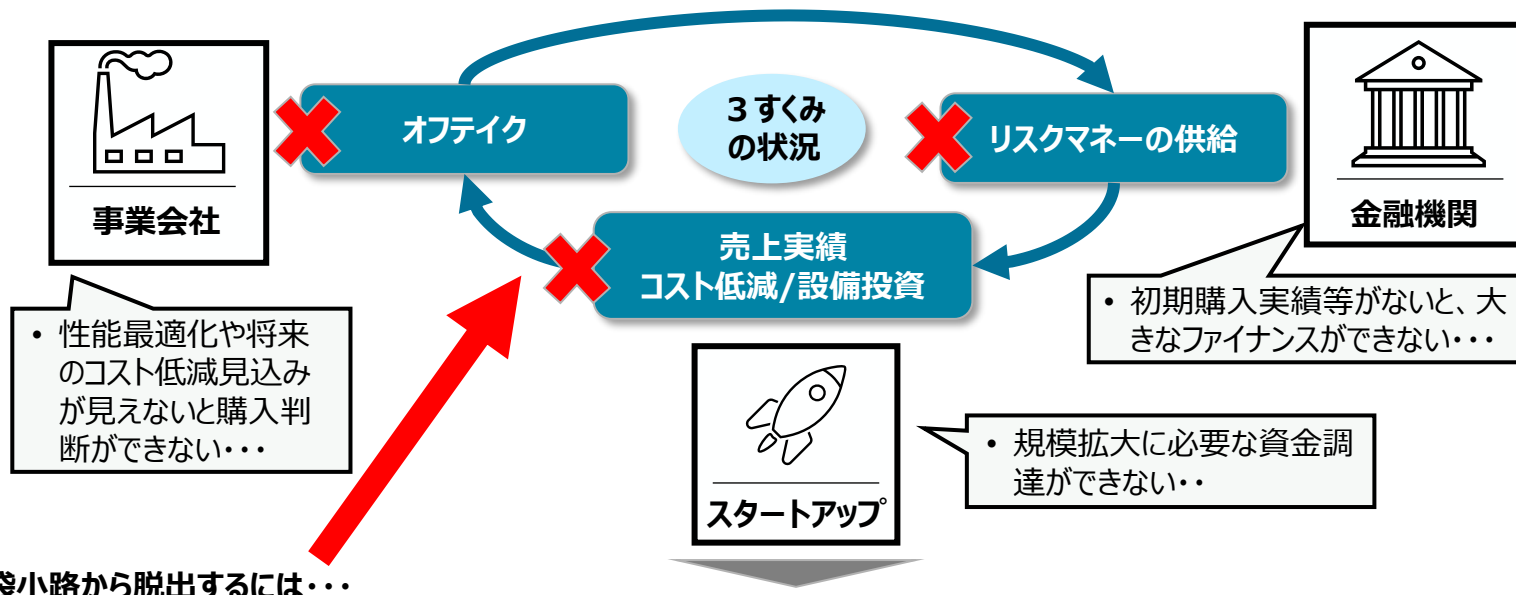
産業構造審議会 イノベーション・環境分科会 イノベーション小委員会資料等においては、名称を「一般/GX_フェーズ2(仮称)」としています

2026/4/24 時点

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

ディープテック分野での「3すくみ」の構造

- ディープテック分野では、**事業会社**、**スタートアップ**、**金融機関**の3者が相互に意思決定できない「3すくみ」の状況により、実導入が進みにくい構造が生じている。
- 事業会社**は、性能最適化や量産化による将来的なコスト低減の見通しが立たなければ、導入・購入の判断を行うことが難しいことも多い。
- スタートアップ**は、事業規模の拡大に必要な資金調達が難しく、また大企業による実導入を踏まえたフィードバックが得られなければ、性能最適化やコスト低減に向けた部材選定や仕様の確定を進めることができない。
- 金融機関においても、初期導入や実証等の実績がない段階では、十分なファイナンスを提供することが難しい。



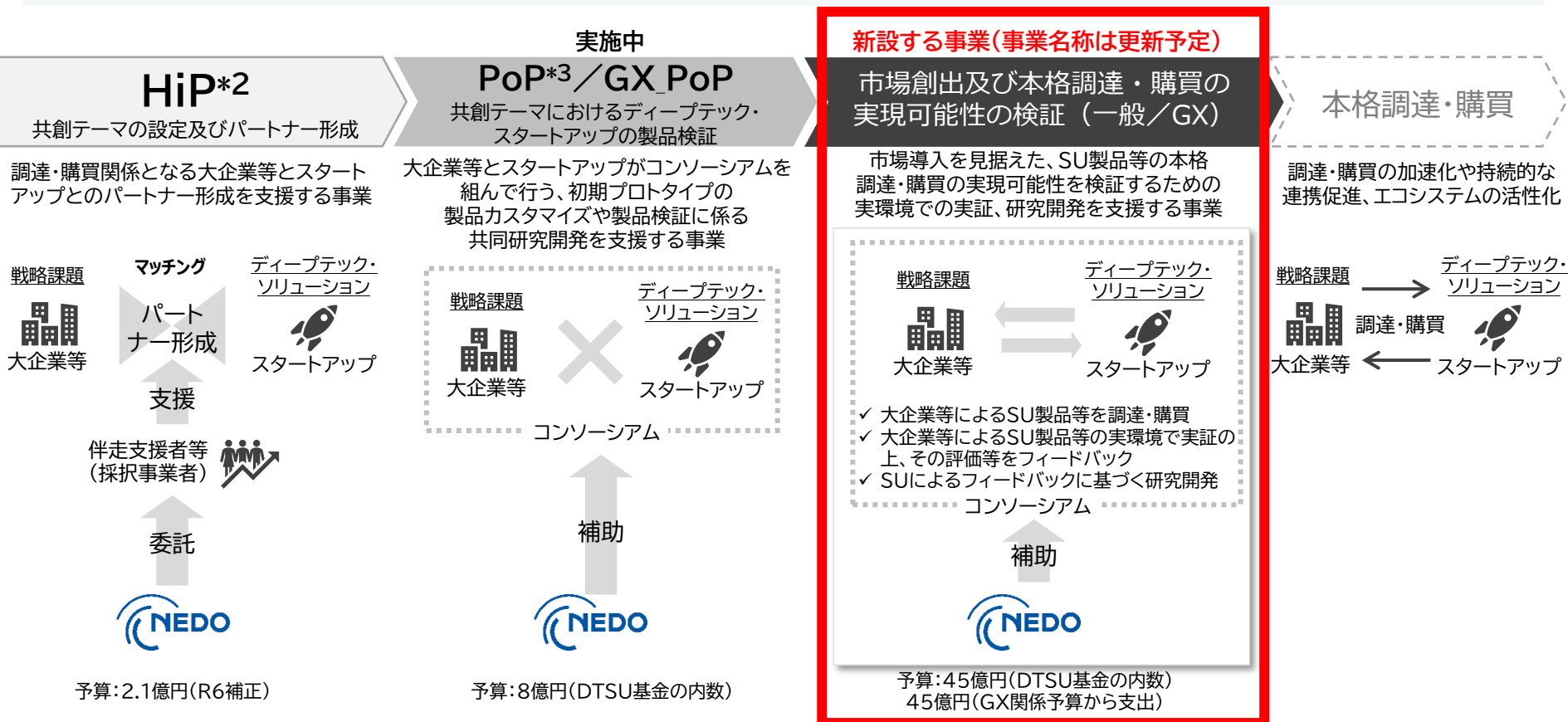
袋小路から脱出するには...

本事業の支援内容

事業会社へのディープテック製品導入インセンティブによりディープテック製品の性能最適化、価格低減に資する事業会社・スタートアップ双方のジョイントコミットメントを引き出す政策支援

大企業等のスタートアップ連携・調達加速化事業の全体像

「共創パートナーシップ 調達・購買ガイドライン」*1を踏まえ、大企業等の課題を解決する可能性を秘めた技術シーズを持つディープテック・スタートアップと、その製品・サービスの調達・購買を希望する大企業等を対象に、市場創出、本格調達・購買に至るために必要な支援を実施。



*1: 2025年4月に経済産業省・NEDOが公表。大企業等におけるスタートアップの製品等の調達・購買を進めるための望ましい在り方(プロセスや推進体制等)、新たな事業の創出等の実現を迅速かつ円滑に進めるための「初期購買・検証」、初期購買趣意書、初期購買モデル契約書等を整備。

*2: HiP: Hypothetical-issue identification and Partnering

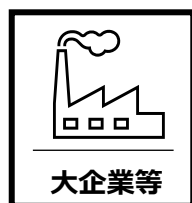
*3: PoP: Proof of Product

*4: JAZ: Journey to Acquisition for Full-Scale Productization

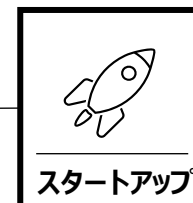
大企業等のスタートアップ連携・調達加速化事業／ 市場創出及び本格調達・購買の実現可能性の想定スキーム

ディープテック・スタートアップの有償サンプルを大企業等が初期調達・購買の上で実環境において実証し、その評価等に基づいてディープテック・スタートアップが研究開発を行うことで、市場創出及び本格調達・購買の実現可能性を検証することを支援する。ディープテック・スタートアップと大企業等が共同して、性能最適化やコスト低減施策等を進め、最終製品化、事業期間後の本格調達に繋げるもの。

事業イメージ



共同申請



コミットメント (LOI等)

- SU製品を実環境で実証し、最終製品化に向けてフィードバック
- フィードバックを踏まえた、SU側の研究開発を伴走支援
- 事業期間内、期間後の製品購入のコミットメント表明（価格/数量等）
- 自社の中期経営計画等への位置付け整理

- 性能最適化、コスト低減、高効率化に向けたロードマップ表明
- 販路拡大に向けた成長戦略の提示

政策支援

大企業等に対して
製品・設備導入の一部を補助

共同での製品最適化
(規格化、オーバースペック排除等)

【想定スキーム】

支援期間：1～3年程度
支援金額：10億円を上限
補助率：1/2以内

初期需要創出による性能最適化・コスト低減効果等を通じて
市場で競争力を有するディープテック製品・サービスへ